

司書のおすすめ



『日本の犬』 山喜多 佐知子／編 武井 哲史／撮影

誠文堂新光社 645.6 ヤ

本書では、縄文時代からともいわれる長い歴史をもつ日本犬の特徴やルーツを、貴重な写真と共に紹介しています。一時は絶滅の危機ともいわれた日本犬は、熱心な保存活動によって現在もその素朴で純朴な姿が残されてきました。南極観測で活躍した犬たち、江戸時代に伊勢参りに出かけた犬たち、そして今や世界的に知られている忠犬ハチなど、多くの人に馴染みのある日本犬のエピソードもあり、愛犬家の方だけでなく、幅広い方々にも日本犬の魅力が伝わる1冊となっています。

『かんたん！ らくらく！ 草取りのコツ』 神津 博／監修 ナツメ社 615.6 カ

「雑草という名の植物はない」と言われますが、実際この時期の庭や畑には、存在が好まれない植物が元気に育っており、それが雑草とよばれています。この本では、造園業に携わる著者が、雑草の草取りのコツを説明しています。

植物の根を4つのタイプに分けて、それぞれに楽な草取りの方法や、生えている場所によって違う草取りの方法を紹介しています。使う道具も、それぞれの方法に適したものがあります。また、草取りのあとには雑草を増やさない工夫もあります。

雑草をじっくり観察してみると、残してもいい雑草もあるのかもしれません。



『雨かんむり漢字読本』 円満字 二郎／著 草思社 821.2 エ



「雨」という漢字は、天の雲から水が落ちてくる様子を表す象形文字です。漢文では「雪がふる」などのように、雨以外の何かが天から降ってくる様子を表す字としても用いられてきました。そんな「雨」を冠する漢字を集めた本書では、字の成り立ちや中国古典のエピソードを中心に、日本近代文学の用例や著者自身の考えたことなどを交えて、「雨かんむり」の漢字を解き明かしてゆきます。「雨」にまつわる物語や歴史に思いを馳せながら、楽しく読める漢字エッセイです。

『天国にたまねぎはない』 久米 絵美里／著 幻冬舎 913.6 ク

ある日、中学生のキートのもとへ死んだはずの7歳上のいとこ・志真人^{しまさと}が現れ、天国にたまねぎを密輸するバイトを持ちかけます。さらに、死後も更新が続くSNSの乗っ取り犯を探すことも命じます。キートは不可思議なできごとに驚きながらも、約束通り口座に振り込まれたバイト代を見て、この話に乗ることを決めます。

平凡で真面目なキートと非凡で奇天烈な志真人。SNSの謎に取り組むうちに見えてくる2人の意外な共通点と深い絆。そして、乗っ取りの犯人をはじめ全ての謎が明らかになったラストでは、幾ばくの寂しさがありながらも温かな気持ちに包まれます。



【ティーンズコーナーにあります。】